

人ごとではない熊本地震。もしもに備え 明日につなぐ

広報ふくつ6月号で熊本地震の特集を組みました。それ以降、市、消防団、地域の自主防災組織において何度か、もしもに備えた訓練がありました。その訓練の一部を皆さんに紹介します。

火災防ぎょ訓練 11月13日



▲今年のはしご車を使いイオンモール福津で訓練

市一斉防災訓練 11月5日



▲市職員を対象にした災害対策本部設置準備訓練



▲宮司コミュニティセンターで行われていた地震体験

県原子力防災訓練 10月10日



▲糸島市リサーチパークでの除染訓練



▲糸島市から福津市中央公民館までの避難訓練

古賀・福津合同火災防ぎょ訓練 9月25日



▲迅速に放水を開始した市消防団第10分団



▲消防ホースを両肩に担ぎ走る市消防団第11分団



▲古賀市消防団、粕屋北部と宗像消防本部による放水

熊本地震では、倒壊した住宅の下敷きになったり、土砂崩れに巻き込まれたりして、熊本県で50人が亡くなっています。避難生活によるストレスや病気などの震災関連死として認定された人、及び、その疑いのある人も70人以上とされています。尊い命の犠牲を無駄にしないため、今を生きる私たちはその教訓を生かし、今後起こりうる災害の被害を最小限に抑える必要があるのではないのでしょうか。

地震の揺れで命を落とすことはありません。阪神・淡路大震災では83・3%の人が建物や家具の下敷きになって命を失いました。大地震では、タンスなどの重い家具も

簡単に倒れます。倒れてくるもの、落ちてくるもの、これらをしっかりと固定するだけでも生存する確率は上がります。圧死しない備えが地震では重要なのです。

市の北東部に西山断層がある福津市にとって、大地震は人ごとではありません。一人一人がもしもに備えることが大事です。

▲消防相互応援協定に基づき、古賀市消防団、福津市消防団、粕屋北部及宗像地区消防本部が連携した合同火災防ぎょ訓練でスクラムを組む関係者。県内でも2市の消防団と2消防本部が訓練左から吉田福津市消防団長、仁部粕屋北部消防本部消防長、小山福津市清水古賀市消防団長、横田古賀副市長、門脇宗像消防本部消防長、

